

現代剣道における問題の解決にむけて Solution for contemporary Kendo problem

1K07B219-2

山田 潤

指導教員 主査 大田 章 先生

副査 矢野 尊之 先生

【目的】

私は小学校に入学する時に剣道を始め、現在でも続けている。この15年以上剣道をやってきた中で技術はもちろん、礼法や剣道が人間形成を行う一面など武道という特性から様々なことを学んできた。しかしその中で学んできたことと現実には異なった部分も見られることに気付いた。私が剣道を通して学んできたことは私の経験の中ではとてもためになることが多かったと思うが、なぜ学んだことと周囲が異なる部分が見られつつあるのか。それは武道としての剣道の形が崩れていっているのではないだろうか。

私は現代の社会が昔に比べればとても便利な社会に進んでいっているように、剣道も近年変化していき、良くない一面も見えてきたのではないかと考えた。その問題点を挙げていき今後の剣道が乱れていかないように指導できるようその解決策を考えていきたいと思いこの研究を始めた。

【方法】

本研究では、まず剣道の発祥を明らかにしていき本来の剣道の姿というものはっきりさせる。その中で現代の剣道はどのような点が変わっていき、乱れていった点を明らかにしていきたいと思う。特に近年、国際化が進む剣道について、剣道の礼法、勝利至上主義の考えが進む学生剣道、そして段位制度から考えられる問題点を探していく。そしてそれらの問題点はどのような方法で改善していくべきなのかを導き出していく。

【各章の要約】

一章では剣道の歴史について考える。現代の剣道が変わりつつあるといわれているが、なぜ、そしてどのように変わっているのかを明確にするには剣道がどのようにして生まれ、どのような過程をたどって現在に至るのか、現代剣

道と比較するためにここで剣道の歴史的な背景をたどっていく。特になぜ剣術から剣道に変わり、そのなかで剣道に何を求められるようになったのかを明らかにしていく。

二章では剣道の国際的な普及によって生じた問題を考える。現在剣道だけでなく、多くの武道が日本以外の国でも行われていて、柔道においてはオリンピックの種目ともなるほどメジャーな競技になっている。その中で剣道にどのような変化が見られ、そしてどのような問題が挙がっていったのか。また海外で行われている剣道は、日本の剣道と比べてみたときに違いがあるのかを考えていく。

三章では学生剣道の問題点を考える。私が今まで一番多く関わってきた学生剣道の中で試合に勝つことを目的とし、試合に勝つためにいろいろな工夫がなされるようになっていくが、それが剣道の本質から外れてしまっていないか。また勝利至上主義の考えからいろいろな乱れがみられるのではないだろうかという点を中心にみていく。

四章では段位制度について考える。段位は簡単に捉えればその人の剣道のレベルを表すものである。しかしその昇段審査は強いかから高段の試験に簡単に受かるようなものではない。そこでなぜ強さと段位が結びつかない部分があるのか、現在の昇段審査の内容、基準、目的を明らかにしていく中でその問題点を挙げていく。

五章では最後に今まで挙げてきた問題についてどのような点を改善していくべきなのかを考えていく。特に一章で挙げた剣道の歴史、本質を元にそれらに沿った剣道を守っていくためには、剣道発祥の地である日本はどのような行動を起こすべきなのか。また国際的に行われるようになった剣道の発展のためにも剣道の本来の姿を守り、またより良いものとしていくためにどのような努力ができるのかという結論を出していく。